

学校名		佐賀県立唐津西高等学校	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「双松の力」の育成を図り、全職員で組織的に、かつ協働的に教育活動に取り組むことができた。特に、地域の人的・物的資源を活用し、保護者や地域の力を教科指導をはじめ学校教育活動全体に積極的に生かしながら、教育活動に邁進した。 ・コロナ禍が続き、教育活動が制限される中でも、最大限の効果が得られるよう様々な工夫を行うことができた。 ・「地域社会の未来を担う志のある人材の育成」に基づき、総合的な探究の時間を中核とした教育課程の編成を進めることができた。 ・今年度の総合的な探究の時間を柱とした普通科改革の実施に向けて、推進リーダーを中心として計画的、実践的に取り組むことができた。 		
2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・創立116年の歴史と伝統を継承し、「地域社会の未来を担う志のある人材」の育成を目指す。 		
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に信頼され、選ばれる学校づくり ・課題発見とその解決に必要な知識・技能の習得 ・総合的な探究の時間・特別活動・ボランティア活動のさらなる充実 ・生徒が目指す多様な進路先の実現 		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○教師の指導力の向上 ○生徒の授業理解度の向上	○生徒による授業評価の満足度80% ○ICTを活用した授業に取り組んでいる教員の割合100%	・各教科年2回以上の相互授業参観週間を実施する。 ・学期ごとに授業評価を実施し授業改善に取り組む。 ・ICT研修(Classi、オンライン等)を実施する。
	○進学意識の向上 ○多様な進路選択の支援と大学進学実績の向上	○大学進学希望者の割合70% ○国公立大学 合格者数 25名 ○私立大学 合格者数 100名	・学年、教科、分掌と連携し、時機に応じた情報提供、集団指導、個別指導、講演会等を企画し、実施する。 ・全教員による総合型入試・学校推薦型入試指導を行う。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●情報モラルに関する意識及び知識を持っている生徒80%	・情報モラル・人権に関する講演会やホームルームを実施する。 ・振興会と協働し明るく気持ちのよい挨拶を推進する。 ・ハナコフェア(人命救助に尽くした先輩に関する取組)の充実を図る。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめ防止及び対応等について」満足している生徒の割合95%	・多面的に生徒の状況を把握・理解し、組織として支援する。 ・欠席が10日を超えた生徒にはケース会議を行う。 ・情報共有シートの有効的な活用を図る。
	◎夢や進路希望の実現に向けて努力する教育活動の推進	◎将来の夢や希望を持つ生徒の割合90% ◎キャリアパスポートの活用率100%	・総合的な探究の時間を中核とした教育活動を実施する。 ・キャリア教育講演会を開催し、将来の進路について考えさせる。 ・ふるさと佐賀を誇りに思う教育講演会を開催する。 ・キャリアパスポートを定期的に活用し、質の高い振り返りを行わせる。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 (感染症の予防と対応) ○各科健康診断後の受診率向上	●うがい、手洗い、手指消毒、換気等を習慣化し、校内における感染症予防対策実施率100% ○再受診勧告を受けた生徒全員に再受診の有無を確認し、再受診率70%	・集会等での呼びかけや教室・廊下のポスター掲示・保健だより等により意識の向上を図る。 ・Classiで生活習慣アンケートを実施し、結果を指導に活かす。 ・学校医との連携を密にして、受診勧告及び啓蒙を行う。
	○部活動の活性化	○部活動をおとして課題解決能力が身についたと思う生徒の割合70%	・全体で部活動の取組を共有するとともにリーダー研修会を開催する。 ・各部活動ごとのミーティングの実施を推奨し、練習計画や振り返りを実施する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●職員の平均時間外在職時間数の削減 ●業務改善に向けた取組を行うことで、職員の健康改善を図る。	○時間外在職時間数の校内平均が90時間以内(昨年度前期平均35時間) ●定時退勤推進日の周知 ●年休取得率平均1.4日 ○健康診断受診率100%、及び再検査受診率70%以上	・月の中旬(毎月15日前後)に時間外在職等時間の個別状況を確認し、声かけをする。 ・毎週月曜日の朝礼で定時退勤推進日の周知を必ず行う。 ・学校閉庁日を平日に5日以上実施する。 ・7,12,2月の職員会議での平均年休取得に関する報告及び年休取得動員を実施する。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
OSAGAコラボレーション・スクールを活用した魅力と活力ある学校づくり	★地域社会に貢献し、地域に信頼され、選ばれる学校づくり	★学校運営協議会を年3回以上実施 ★自分の学校を中学生に進めることができる生徒の割合70%以上 ★学校外のいるる人に話を聞きに行く生徒の割合50%以上	・総合的な探究の時間を中核に据えた教育活動を展開する。 ・学校運営協議会とのコラボレーションを推進し、探究活動のランニングパートナーとして連携を深める。 ・地域の人材を活用したキャリア教育を行う。
○特別活動・生徒会活動・ボランティア活動	○図書館の利用と読書活動の推進	○図書貸出総数 年間1600冊	・朝読書の効用を適宜発信する。 ・図書館資料を積極的に更新するとともに図書館だより・新着図書案内等を毎月発行する。 ・授業での図書館活用を促進するために、各教科の授業内容に役立てそうな選書を行う。
	○生徒会活動・ボランティア活動の充実 ★ボランティアを核とした学校づくり	○自主性が重んじられていると感じる生徒の割合90% ★ボランティアに対する意識を持つ生徒の割合50%	・各種学校行事等の司会進行、双松祭の企画運営を生徒主体で行う。 ・ボランティア部を中心とし学校全体でボランティアに取り組む体制と制度を構築する。
○地域に信頼される学校づくり	○開かれた学校づくり	○学校HPの定期的な更新(週1回以上) ○学校開放日における保護者の授業参観者数90名 ○今年度の重点目標を知っている保護者の割合80%	・HP、メール配信、SNSの活用による学校の情報発信を行う。 ・中学校訪問及び中学生の学校見学会の充実。 ・学校開放日の取組内容の工夫を図るとともに開催についての周知を徹底する。 ・地域の行事や活動に積極的に参加する。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり			
5 総合評価・ 次年度への展望			